

## 赤尾地区（山県市）

## 【地域の概要】

- 当該地区は、担い手への集積が進んでおり、山県市の中ではモデル的な地域である。
- しかし、耕作者の年齢が集落全体で高齢化してきていることや、集落外在住の者が農地を相続することなどにより、耕作放棄地が増えてきている。

## 取組開始前の状況や課題

- 遊休化しそうな農地を把握し、荒廃を未然に防ぎ集積を進めることが課題である。
- 農業委員会で話し合う中、担い手が耕作する農地に隣接した不在地主所有の遊休農地があることが分かり、農業委員会の活動で解消し、担い手に集積していきうということになった。



## 取組内容

- 今回対象としている農地は、長年耕作されず、集積された農地の間に位置している。
- 面積は1, 495㎡。
- 農地利用最適化推進委員12人（全員）と、旧高富地区の農業委員5人、岐阜農林事務所農地整備課職員8人、事務局5人の総勢30人が参加。萱を刈ったり集積して処分場に運ぶなど、約3時間の解消活動を行った。



## 今後の展開と方向性

- 解消後は、隣接の農地を耕作している地域の担い手（集落法人）が耕作していくこととなった。
- 今後は、この活動を市内全域にも広げていくこととしているが、解消すること自体が目的ではないため、担い手がしっかりと耕作していくことができることから活動を広げていくこととしている。